

かかわりあい学び合う中で確かな学力を身に付ける学習指導のあり方
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫～

下松市立中村小学校

I 研究の概要

1 主題設定の理由

本校は、「ふるさとを愛し 豊かな心と夢をもつ かしこくたくましい 中村っ子の育成」を学校教育目標に設定し、学習指導を中心に研究を進めてきた。今年度は「地域が大好きな子」「自分で考え粘り強くやり抜く子」「人との関わりを大切にし、感謝する子」をめざす児童像としている。令和3年度は「かかわりあい学び合う中で確かな学力を身に付ける学習指導のあり方」という研究主題のもと、「子どもたちの主体性を高める工夫」「対話的で深い学びを促す工夫」「自らの学びを振り返り、自他の成長や変容を実感させる工夫」を視点とした研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題がある。

(1) 子どもたちの主体性を高める工夫

- ・ 単元の導入で、単元のねらいや流れ、ゴールを示すことで、学ぶ内容やつけた力が子どもにも伝わっていった。
- ・ 児童に考えさせたい事柄について、視点を与えることで、主体的に学習活動に取り組むことができた。
- ・ 話し合い活動の前に、調べ学習の時間を十分に取ることで、自分の考えをもち、積極的に話し合うことができた。
- ・ タブレットは、学年や児童の実態に合わせて使わせていく必要がある。

(2) 対話的で深い学びを促す工夫

- ・ ミニ先生やペア活動を活用することで、子ども同士の学び合い、教え合いが活性化した。
- ・ タブレットを活用することが視覚的な支援につながり、学びを深めることができた。また、ロイロノートの提出箱を使うことで、簡単に考えの共有をすることができた。できない子の参考になったり、話し合いを活発にしたりするなどの効果があった。
- ・ 二者択一の発問をすることで、自分の考えをもって話し合いに参加することができた。
- ・ 子ども同士の発言をつないで話し合いを活性化できるようにしていきたい。
- ・ 「話す力」を伸ばすための手立てを考えていく必要がある。
- ・ 少人数だと積極的に話をするが、全体の場だと自信をまとめてしまう児童が多い。

(3) 自らの学びを振り返り、自他の成長や変容を実感させる工夫

- ・ 個人の振り返りや気づきを全体で共有することで、新たな気づきや疑問などをもちて学習に取り組むことができた。
- ・ 個人やグループの振り返りを共有、比較することで、新たな気づきや発見が生まれた。

- ・ ロイロノートの提出箱に、振り返りを提出することで、自分と他の児童の学びを比べたり、考えを整理したりすることができた。また、提出するカードの色を指定することで、感想以外の内容も評価し、次時の学習につなげることができた。
- ・ 振り返りを書く時間の確保や、単元の振り返りの深め方を考えていきたい。
- ・ 振り返りを書くことが難しい児童には、例や書き方を示していく必要がある。

本校の子どもたちは、素直で明るく前向きに取り組み、がんばろうとする姿が見られる。昨年度も、全国学力・学習状況調査等の結果からも重点的に指導した項目への改善が図られ、数値的にも向上してきている。しかし、自分で判断して行動したり、経験を生かして臨機応変に判断して行動したりする積極性に欠ける面があり、仲の良い友達とは進んでかかわるが、それ以外の友達への広がりがあり見られない。また、友達の考えと比較したり関連付けたりすることや、自分の考えを分かりやすく相手に説明したりする力が十分ではない。学力向上の面からも、必要な情報を読み取り、条件に沿って、自分の考えを記述することを不得手としている。このことから、表現力向上を目指して、効果的な授業スタイルを構築することはまだまだ課題であると考えます。

そこで、更なる学びの充実に向けて、獲得した「知識・技能」を友達とかかわり合う中で考えを深めていき、自分のものとして再構築することができる子どもの育成を目指して、本研究主題を設定した。

2 研究仮説

- 子どもが学習対象に主体的にかかわり、友達と学び合うことで、自分では気付かなかった新しい価値を発見し、学びを深めたり学ぶ楽しさを味わったりすることができるだろう。
- 対話的で深い学びを促し、子どもが自らの成長や変容を実感できる指導方法を工夫することで、確かな学力を身に付け、積極的に学ぼうとする姿勢を形成していくことができるだろう。

3 研修の視点

【視点①】子どもたちの主体性を高める工夫（つかむ）

- ・ 単元全体を見通した単元構成の工夫
- ・ 教材との出会わせ方の工夫
- ・ 問題意識が明確にもてる課題の工夫

【視点②】対話的で深い学びを促す工夫（かかわり合い学び合う）

- ・ 思考ツール、ホワイトボード、タブレット端末等の活用
- ・ 各教科の特質を生かした「話す」、「聞く」、「書く」場の設定
- ・ かかわり合いや学び合いの必然性を感じさせる発問や場の工夫
- ・ 必要な情報を活用しながら、条件に沿って自分の考えを記述し説明する場の設定

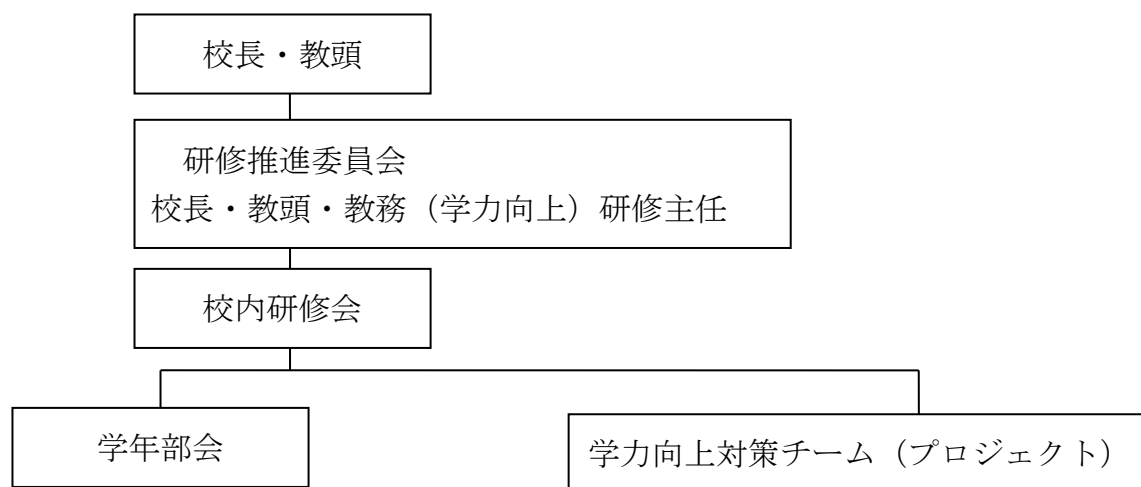
【視点③】 自らの学びを振り返り、自他の成長や変容を実感させる工夫（振り返る）

- ・学習をまとめたり振り返ったりする時間の確保
- ・振り返りを次時の学習へ生かす工夫

4 研究の方法

- (1) 校内授業研究【年3回、低・中・高学年】
- (2) 各学級・学年での実践（一人一授業の実施）
- (3) 小中連携、幼保小連携、学力向上に向けた研修の活用

5 研究組織



6 研究の経過

期 日	内 容
4 / 1 3 (水)	○危機管理研修（アレルギー対応について）
4 / 2 0 (水)	○本年度の副主題、視点の検討、研究授業のもちかたについて
5 / 1 1 (水)	○全体会授業者決定、一人一授業の実施方法について
7 / 2 2 (金)	○学力向上プロジェクト、学力テストの分析
7 / 2 5 (月)	○特別支援教育 演習
7 / 2 6 (火)	○ICT 教育 演習
7 / 2 7 (水)	○コミュニティスクール活動
8 / 5 (金)	○夏季講演会
8 / 1 9 (金)	○人権教育講習会
8 / 2 4 (水)	○いじめ対策委員会、SCによる研修
8 / 2 6 (金)	○教育課程の復伝、全体授業②指導案検討、危機管理研修
9 / 7 (水)	○全体会授業者①指導案検討
10 / 5 (水)	○全体会授業者① 高学年（社会「戦国の世から天下統一へ」） 指導者 下松市立公集小学校 教頭 森重孝太郎 様

10 / 19 (水)	○全体会授業② 低学年 (算数 「3つのかずのけいさん」) 指導者 やまぐち総合教育支援センター 教育支援部学校支援班 科学教育グループ 研究指導主事 松田 高広 様
11 / 9 (水)	○全体会授業③指導案検討
12 / 7 (水)	○研修のまとめ作成について
2 / 1 (水)	○今年度の研修の成果と課題について

II 研究の成果と課題

今年度は、研究主題「かかわり合い学び合う中で確かな学力を身に付ける学習指導の在り方～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導方法の工夫～」のもと、『主体的・対話的で深い学び』に重点を置いた校内授業研究を実施した。また、一人一授業を行い、校内全体で研究主題に即した授業を組み立てた。成果と課題は以下のようなことがある。

(1) 成果

- ・ 単元の導入で、具体物や資料の提示などの工夫をしたり、身近な物と関連させながら教材に出会わせたりする等の工夫をしたことで、児童の問題意識を持ちやすくし、主体性を高めることができた。
- ・ タブレットの思考ツールを使って、自分の考えを分類したり、整理したりする活動を取り入れた。また、ロイロノートやホワイトボードを活用することで、児童が自分の意見に自信をもって、友達との活発な意見交換をすることができた。
- ・ チームや班で一つの課題に取り組む活動を行うことで、全員が理解するための学び合いの必然性をもたせたり、児童が自分の意見を発信しやすくなったりした。
- ・ 振り返りの内容を次時に紹介することで、振り返りの書き方を共有したり、次時の活動へつなげたりすることができた。

(2) 課題

- ・ ペア活動やグループ活動で意見交換をするのみに留まってしまうことがあり、友達に聞く（質問する）力を育てる必要がある。自分の考えを発信することに注力しすぎていることもあり、自分と友達の考えの相違点等に気付くための話合いに至っていない。
- ・ 分からない児童のための学び合いで終わることが多く、深い学びにつながっていない。
- ・ 振り返りの視点が教師の意図するものと異なることがあり、振り返りをする際の言葉や方法に工夫が必要である。学びの結果ではなく、学びの過程を振り返られるようにしていきたい。

話合い活動や振り返りの方法・内容についての課題が多く見られたが、今後も授業の主題やねらい、学習の方法などを十分に検討しながら、日々の授業づくりに尽力し、児童の「主体的・対話的で深い学び」につながる指導を行っていきたい。